



ながはし

【重点教育目標】

いきいきと学び 未来を創る
長橋の子

<学校教育目標> かしこく なかよく たくましく



長橋小HP

次年度（令和7年度）に向けて

校長 及川 年彦

教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して、令和5年8月28日に中央教育審議会では以下のような緊急提言がなされました。

1. 授業時数の見直しについて

- (1) 標準授業時数を大幅に上回っている（高学年が年間1,086時間以上）学校は、早急に見直すこと
- (2) 指導体制に見合った計画に見直すこと
- (3) 災害や流行性疾患による学級閉鎖等の不測の事態に備えることのみを過剰に意識して標準授業時数を大幅に上回る必要はないこと

2. 学校行事の見直しについて

- (1) 学校としての体裁を保つためのものや前例のみにとらわれて慣例的に行っている部分をやめ、教育上真に必要とされるものに精選すること
- (2) より充実した学校行事にするため行事間の関連や統合を図るなど、学校行事の精選・重点、簡素化・省力化を図ること

つまり、「**学校における働き方改革**」をより一層推進する必要があるということです。「学校における働き方改革」は、**教職員が心身ともに健康を保つことができる環境を整え、子どもたちに真に必要な、効果的な教育活動を持続的に行うことができるようにするためのもの**です。さらに、令和6年8月の中央教育審議会答申では、「**学校における働き方改革の更なる加速化**」が取り上げられました。

本校ではこのことを踏まえ、「学校における働き方改革」をより一層推進するために次年度（令和7年度）以下の取組を行いますので、保護者・地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1. 計画段階で5・6年生の標準授業時数（各教科等を指導するのに必要な時数）1015時間に対して、余剰時数を40から50時間程度にします。つまり、年間1055時間から1065時間とします（以前は、70時間以上の余剰時数を計上していました）。

⇒ このことに伴い、全校5時間授業や給食ありの4時間授業の日を年間通してバランスよく位置付けます。また、3学期段階で余剰時数が残っている場合は、追加で午後の時間をカットする予定です。その場合は、早めにお知らせします。なお、我々教職員もただ単に働く時間が減るのではなく、限られた時間（標準授業時数）で子どもに必要な資質・能力を身に付けさせなければならないことも確認しています。

2. 上記のように計画を立てても、1・2年生の余剰時数は90～100時間程度、3・4年生の余剰時数は60～70時間程度となります。

⇒ 1・2年生は、水泳学習やスキー学習の日は、給食ありの4時間授業とします。なお、水泳学習とスキー学習ともに、まだ日にちが決まっていませんので、決まり次第お知らせします。

⇒ 1～4年生は、学期末等に6時間授業を5時間授業にしたり、給食ありの4時間授業にしたりします。こちらについてもまだ決まっておきませんので、決まり次第早めにお知らせします。

※ 標準授業時数 1年生：850時間 2年生：910時間 3年生：980時間 4年生：1015時間

※ 学校では標準授業時数＋学校行事や児童会行事＋クラブ活動の時間が年間で計画されています。

3. 学校行事の簡素化・省力化を進めます。

- ⇒ 例えば、儀式的行事（入学式や卒業式など）や児童会行事（1年生を迎える会やさよなら集会など）などの目的に応じて、真に必要な内容なのか、準備にかけける時間は適切なのかをしっかりと判断して、無駄のない学校行事を計画していきます。
- ⇒ 次年度から「学芸会」を「学習発表会」と名称変更し、日常の学習の成果を発表（表現）する場と位置付け、計画的な取組を行うことで準備時間の縮小化を図ります。

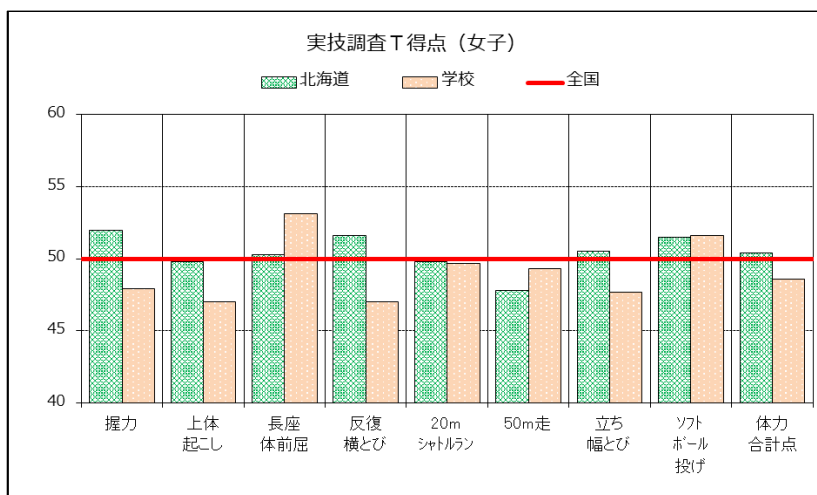
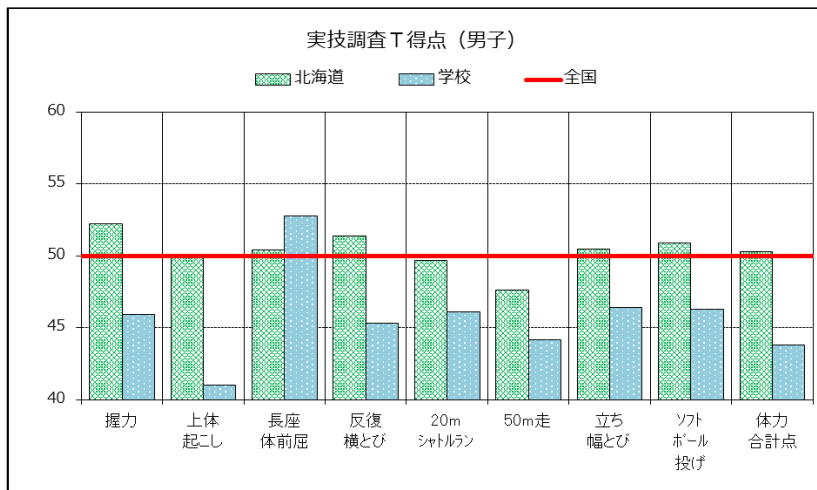
4. 評価システムの改善（通知表二期制）を行います。

- ⇒ 「子どもと向き合う時間を確保することで『教育の質の向上』を図ること」「評価期間を長くすることで、子どもの成果や課題を適切に評価すること」を目的に行います。学期制は今まで通り三学期となりますので、夏冬休み前に保護者や児童との面談を設けます（年2回）。そのことに伴い、**年度当初（4月）の個人懇談は廃止**とします。

5. 学級通信などのお便りや連絡は基本的にデータ配信とします。

- ⇒ 印刷業務等の廃止による効率化、一斉配信による情報の迅速化、紙やインクなどの消耗品費の節約等のため今年度以上に推進していきます。情報については、テトル、子どもの端末、学校ホームページでご覧いただけます。なお、紙配布をご希望の場合はお配りしますので学校まで連絡ください。

令和6年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果について



左は1学期に5年生が実施した調査結果です。上段が男子、下段が女子です。

男子は、長座体前屈が全国平均を上回りましたが、その他の項目は全国平均を下回りました。

女子は、長座体前屈、ソフトボール投げが全国平均を上回りましたが、その他の項目は全国平均を下回りました。

グラフを見ると、女子は全国との差が小さく、男子が全国との差が大きくなっていることが分かります。特に本校の長年の課題である「持久力（20mシャトルラン）」は女子が全国平均まであと僅かです。また、体の柔軟性は男女ともに全国を大きく上回っています。

しかし、男女とも筋力（握力）や敏捷性（反復横跳び）、ジャンプ力（立ち幅跳び）に共通の課題が見られることから、持久力を高めることはもちろん、日常の体育の準備運動の内容を見直し、敏捷性やジャンプ力を高める手立てにしたり、3学期から始めた体育館前のハンドクリップのように日常的に課題となる運動に取り組める環境づくりを進めたりしながら体力向上を図っていきます。